

～女性の活躍推進のための機会創出・人材育成戦略～

1. 戦略策定の趣旨

我が国においては急速に進む少子高齢化及び人口減少が喫緊の課題となっており、本市においても「天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」という。）のもと、安定した人口構造を保持し、将来にわたって市民が安心して働き、希望に応じた結婚、出産、子育てができる地域社会の構築を目指して、地方創生に意欲的に取り組んでいる。

総合戦略では、本市の現状と課題を踏まえ、①地域資源と新しい技術・多様な働き方を融合し、安心・充実して働ける場を創出する、②天理ならではの魅力を活かし、新しい人の流れをつくる、③子どもを産み育てたい人の希望が叶う、選ばれるまちになる、④垣根を超えた連携・協働で、暮らしやすく、住み続けたいまちをつくる、の4つの柱を基本方針としている。

①においては、天理市産業振興館の設置による「テレワークの推進」や天理市しごとセンターの設置による「若者・女性を中心とした就労支援」を施策に掲げ、特に女性が仕事と子育てを両立させ、希望する分野で活躍できるよう、天理市子育て世代すこやか支援センターとの連携・柔軟な働き方の提案等により、新たな雇用の創出や求人求職のマッチングを支援している。また、③については、出産や子育てにかかる不安・負担を軽減し、若い世代が結婚・出産・子育てに希望を持てる地域社会の実現を目指し、前述の子育て世代すこやか支援センター等、子育て支援拠点の拡充や、子育て環境の向上、子育て支援事業の充実等に取り組んでいる。④では高齢者や市民が健康づくりに関心を持ち、病気の予防に取り組めるよう健康管理を支援するとともに、市民が主体的に地域活動へ参加し、住民同士が支え合う地域社会の形成を目指すことで、定住化を促進している。

その他、地域資源を活かした観光振興や、スポーツ・音楽・文化を活かした交流促進など、幅広い分野での取組を展開しているが、女性市民自身を支援の対象としている取組も含め、地域で暮らす女性が直接的または間接的に地域活動に参画し、その感性・スキル・経験が活かされることで、より有意義な成果を生む取組が多い。そのため、本市では女性が仕事だけでなく、地域活動においても活躍できる場の提供をすることにより、女性市民のスキルアップや活躍ができることを重要な課題としている。

そこで、幅広い年代の女性市民を対象に、就労や地域における活動ニーズ等の傾向を調査・分析するとともに、地域内外の事業者の雇用ニーズや各種団体の人材ニーズ等を併せて調査し、得られたデータを元に双方のニーズをマッチングさせる仕組みの構築及び効果的な運用に向けた戦略を策定することにより、市民の活躍促進を通じて総合戦略に掲げる「これからも住み続けたいまち天理」の実現に資することを目的とする。

2. 基礎調査の概要

① 地域人材情報を把握するための女性市民へのアンケート

市内に居住する 18 歳以上 75 歳未満の女性 23,377 人を対象に、就労・活躍に関する意識や現状を把握するとともに、就労に対するニーズ、地域活動への参加に対するニーズ等についてのアンケート調査を行い、その結果について分析を行った。
(回答数：5,294 人、回答率：22.6%)

② 人材活用の受け皿となり得る事業者へのアンケート

市内在住女性を雇用する可能性がある事業者として、従業員数 30 人以上の市内の事業者 138 社及び従業員数 50 人以上の近隣市町の事業者 199 社を対象に、業種、従業員規模、従業員数の今後の見込み、求人ニーズ、人事・雇用管理や人材確保等に関するニーズ等についてのアンケート調査を行い(回答数:158 社、回答率:46.9%)、さらに、一律な質問・選択肢からは把握できない雇用ニーズ等について 5 社を任意抽出して個別ヒアリングを行い、その結果について分析を行った。

③ 地域活動の受け皿となり得るボランティア団体へのヒアリング

地域人材の活躍の場として考えられるボランティア団体について、活発な活動実績がある 8 団体を抽出して、活動目的、活動内容、活動を通しての参加者の満足度、会員の確保等についてのヒアリングを行い、その結果について分析を行った。

3. 調査結果から浮き彫りになった課題等

(1) 女性の就労ニーズについて

- ・現在働いていない女性の就労ニーズは、「非正規」(55.6%)「週2～3回」(43.8%)「午前のみ」(51.9%)「事務職」が多い。しかし事業者の雇用ニーズは、「週5回」(30.2%)「フルタイム」(52.1%)「技術職・専門職」(31.1%)が多い。
- ・就労状況は、子育て世代と考えられる30代で落ち込み、40代でまた上昇するM字構造を示している。
- ・20代～40代では「出産、子育て期間が終わったら働きたい」という回答が60%(出産・育児との両立が課題)に上る。
- ・仕事を探す(選ぶ)際に重視することは、非正規社員を希望する場合「勤務日・勤務時間が柔軟に決められる」「職場の雰囲気」が上位を占めている。
- ・経験した職種が「事務」「保健医療関係」「福祉関係」「教育関係」の人は、50%以上が同じ職種を希望している。

(2) 事業者の雇用ニーズについて

- ・求人活動における悩みについては、「募集しても人が集まらない(応募が少ない)」(73.7%)「応募はあるが必要とする知識・経験等が不足」(35.3%)が多数に上る。
- ・従業者数100名以上200名未満の会社で人手不足の傾向が顕著である(66.7%)。
- ・全般的に正社員では、「専門職・技術職」「技能職」の人手不足が顕著である。(特に介護職、支援員、ヘルパー、保育士が不足)
- ・非正社員では、「技能職」「サービス職」の人手不足が著しい。
- ・正社員の勤務体系について、1年及び1ヶ月単位での変形労働時間制を導入している事業者は多いが、テレワーク等の在宅勤務制や時差出勤制を導入している事業者は少ない。
- ・育児・介護の両立のため導入している制度は、1日の所定労働時間の短縮が多い。

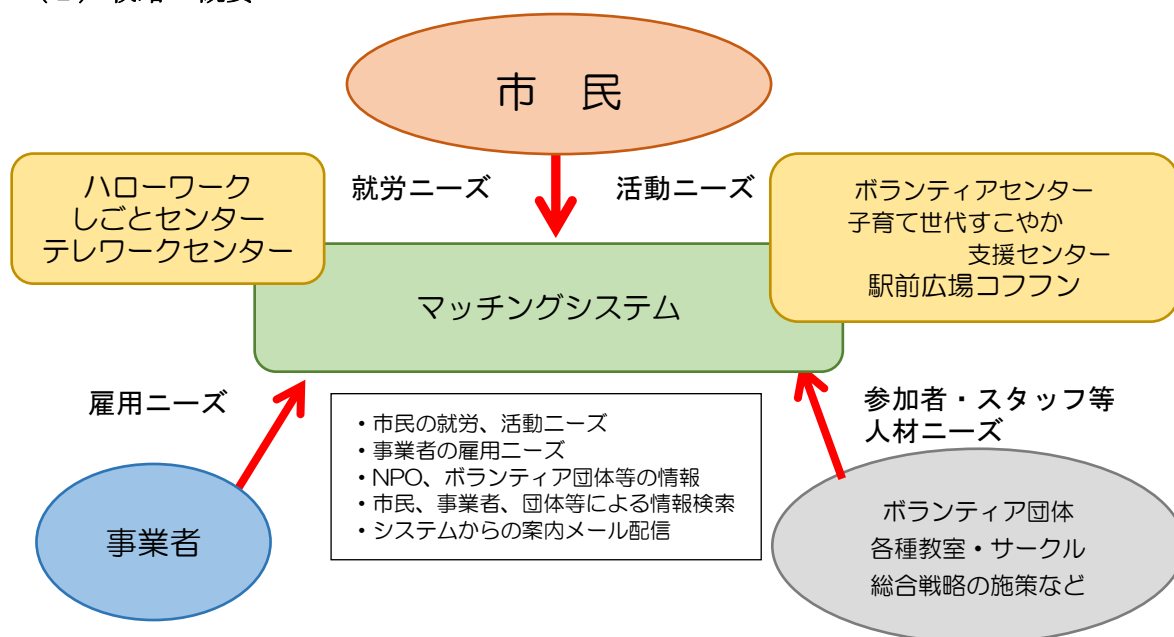
(3) 地域活動について

- ・程度に差はあるが、地域活動に参加してもよいと思っている人が全体の70%程度あるものの、実際に参加している人は10%程度である。
- ・地域活動についても「育児・介護以外の家事との両立」(30.7%)「育児や介護との両立」(27%)が課題と答えた人が多い。
- ・地域活動への参加意欲は50代以上で高まっている。
- ・20代～50代では、「育児・子育て支援」「医療・健康」に関する活動に参加意欲が高い。
- ・「災害援助」「国際協力・国際交流」「育児・子育て」の活動を既に行っている人は、50%以上が今後も参加したいと思っている。
- ・20代～40代では育児等の家事との両立とともに「一緒に参加する仲間がない」ことも不安と思っている。

- ・活動したいがボランティア活動の内容や実績が不明との意見が多い（45.8%）。
- ・特技・得意分野を「積極的に活かしたい」と答えた人の28%が教育関係の経験者、20%が保健医療関係の経験者である。
- ・特技・得意分野を「積極的に活かしたい」と答えた人の33%が教育関係の仕事を希望し、また、23%が保健医療関係の仕事を希望している。
- ・地域のボランティア団体は、高齢化、人手不足による運営困難が課題として顕著である。
- ・「天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組に関して、地域での活動で「役に立ちたいと思う」人や、地域活動等へ「既に参加している」人や「できるだけ参加したい」人など、活動（参加）意欲が高い人では、「公共施設や空き家などを活用した交流拠点づくり」や「天理駅周辺地区における文化発信・健康推進・憩いの場づくり」の回答が多い。

4. 戦略の全体像

(1) 戦略の概要



○雇用のミスマッチの解消・機会創出

<p>①就労ニーズと雇用ニーズのマッチング強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークとの一体的事業の推進 ・合同説明会等による求職者と求人事業者の接点拡充 ・キャリアコンサルタントの配置 	<p>②柔軟な働き方ができる雇用の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレワークやそれ以外の柔軟な働き方（短時間勤務やワークシェアリング）による女性の多様な形態での就労の促進 	<p>③子育て世代の就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援と連携した就労の推進 ・若者世代の男女共同就業の促進 ・長期休業中の預かり保育の拡充及び保育サポーター等への人材活用
---	--	--

○地域活動の活性化

<p>①市民の関心の高い分野での人材ニーズ発掘と人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らのスキルを活用したい人が多い分野での地域人材ニーズ・活躍手法の発掘 ・スキルを活用するための支援講座の開催 	<p>②ボランティア団体の充実とマッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の情報発信強化 ・ボランティア活動への参加促進 ・子育てサークルへの活動支援 	<p>③公共的分野への参画の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略の施策等に地域人材のスキル等を活用 ・地域課題解決のための新たな市民活動主体の育成・促進 ・学校支援ボランティアの活動促進
---	--	--

(2) 施策方針について

施策方針1 雇用のミスマッチの解消・機会創出

(ア) 就労ニーズと雇用ニーズのミスマッチの解消

<調査結果から>

①前章3の(1)と(2)を突き合わせると、雇用のミスマッチの状況が具体的に明らかになった。

・職種について

事業者ニーズは「技術職・専門職」(31.1%)が多いのに対して、現在働いていない女性の就労ニーズは「事務職」が多いなど、職種に関するギャップも大きいことがわかった。

・特に需給バランスに課題がある職種(介護職等)

雇用ニーズでは特に介護職、支援員、ヘルパー、保育士の正社員の人手不足が顕著だったのに対し、就労ニーズでは、経験した職種が「事務」「保健医療関係」「福祉関係」「教育関係」の人の50%以上が同じ職種を希望しており、マッチングの工夫によってミスマッチを解消できる可能性があることがわかった。

②また、マッチングだけでは解消しない部分があることがわかった。

・求人での悩みについて、「応募はあるが必要とする知識・経験等が不足」(35.3%)との答えが多数に上っており、職業能力向上によるスキルアップの必要性が見取れた。

<施策の方向性>

このことから、就労ニーズと雇用ニーズのミスマッチの解消を、施策の柱の一つとし、

- ①マッチングが望まれる職種に重点を置いた施策を行うとともに、
- ②キャリアコンサルタントによる就業活動への準備やキャリアカウンセリング、心理カウンセリング等を実施し就業へとつなげる。

<事業例>

- ①市庁舎内に市の企業支援部門と奈良労働局のハローワークが併設され連携している「しごとセンター」の立地のメリットを最大限活かして雇用のミスマッチを解消し、求職者と求人事業者の接点の拡充を図る。
- ②また、キャリアコンサルタントの配置により、就業に向けたきめ細かな対応を図る。

(イ) 柔軟な働き方ができる雇用の創出

<調査結果から>

雇用形態において、求人ニーズと求職ニーズのギャップが大きいことがわかった。

・雇用形態について

事業者ニーズは、「週5回」(30.2%)「フルタイム」(52.1%)が多いのに対して、現在働いていない女性の就労ニーズは、「非正規」(55.6%)「週2～3回」(43.8%)「午前のみ」(51.9%)が多く、雇用形態に対するギャップが大きいことがわかった。

<施策の方向性>

このことから、柔軟な雇用形態や求職者のスキルアップを促すことで雇用の機会を創出する施策に取り組む。

<事業例>

- ①テレワークによる就労や短時間勤務制度、ワークシェアリングといった働き方の普及・促進を図り、状況に応じた柔軟な働き方ができる雇用の場を創出する。

(ウ) 子育て世代の就労支援

<調査結果から>

- ・就労状況は、子育て世代と考えられる30代で落ち込み、40代でまた上昇するM字構造を示している。
- ・20代～40代では「出産、子育て期間が終わったら働きたい」という回答が60%(出産・育児との両立が課題)に上ることから、出産・育児との両立ができれば就業希望が高まる可能性が見て取れた。
- ・また、現在働いていない女性の就労ニーズは、「非正規」(55.6%)「週2～3回」(43.8%)「午前のみ」(51.9%)が多く、子供を安心して預けることができる環境を整備することによって、フルタイムの求職を増加させる可能性が見て取れた。

<施策の方向性>

これらのことから、子育てが女性に偏らない家庭環境の促進や、安心して子供を預けることができる環境整備など、子育て世代の就労を支援する施策を行う。

<事業例>

- ①3センター(子育て世代すこやか支援センター、テレワークセンター及びしごとセンター)の連携を強化し、相談、スキルアップ、マッチングといった一連の仕組みを構築し、子育て世代の就労を支援する。
- ②子育て女性を取り巻く環境へのアプローチ、預かり保育の拡充等により、女性が状況に応じた柔軟な働き方ができる環境を整備する。

施策方針2 地域活動への参加促進

<調査結果から>

- ①20代～50代では、育児・子育て支援や医療健康分野での活動への参加意欲が高く、地域ニーズとも合致するので、活動・活躍のためのスキルアップや能力発揮方法の習得が望まれる。
- ②雇用と同様、地域活動への参加においても、ボランティア団体や活動スキル・意欲とのミスマッチや情報不足が明らかになった。
 - ・地域活動に参加してもよいと思っている人が全体の70%程度あるものの実際に参加している人は10%程度にとどまる一方で、ボランティア団体は高齢化と人手不足に悩んでいる。
 - ・女性の側が地域活動に参加する場合の課題については、家事、育児、介護との両立(約58%)のほか、一緒に参加する仲間が居ないことや、ボランティア活動の内容や実績が不明であるとの意見(45.8%)が多いことがわかった。
 - ・特技・得意分野を積極的に活かしたいと答えた人の33%が教育分野、23%が保健医療分野を希望している。
- ③また、「天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組に関して参加意欲が高い人では、「公共施設や空き家などを活用した交流拠点づくり」や「天理駅周辺地区における文化発信・健康推進・憩いの場づくり」の回答が多く、まちづくりや公共分野への参加意欲が高い層があることがわかった。

<施策の方向性>

このことから、

- ①参加意欲の高い分野について、活躍手法やスキルの向上を支援することで、地域活動への参加を促進する。
- ②地域活動への参加意欲と活動の場・機会とのミスマッチの解消に取り組み、地域活動への参加促進につなげることを施策の柱とする。
- ③まちづくりや公共分野に参加できる場を作り、積極的な地域づくりへの市民参加を促すことに取り組む。

<事業例>

- ① 市民の関心の高い分野での人材ニーズの発掘や人材育成を図ることで、支援をしたいという意欲と支援を受けたいというニーズをうまくマッチングさせ、地域の課題解決に地域人材を効果的に活かす。
- ② 地域活動の情報が不足しているという課題から活動意欲のある方へのボランティア団体等の活動情報のPR強化を行うとともに、講座の開催等により団体の活動を支援する。特に、最も身近で参加しやすい子育てサークルの活動を支援することで、支援される側から支援する側への好転を図る。
- ③ 地域での活動意欲やボランティア活動等への参加意欲の高い人は、「公共施設

や空き家などを活用した交流拠点づくり」や「天理駅周辺地区における文化発信・健康推進・憩いの場づくり」などに関心を持っている傾向があることから、公共的分野への参加を促進する。また、地域と学校のパートナーシップの強化を図り、学校支援ボランティアの活動を支援するとともに、参加しやすい環境を整える。

(3) 戦略の対象期間

戦略の対象期間は2018年（平成30年度）から2020年（平成32年度）までの3年とする。

5. 個別戦略の概要

(1) 雇用のミスマッチの解消・機会創出

◇重要業績評価指標 (KPI) の設定

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H28)	目標値 (H32)
天理市しごとセンターを通じた女性の就職数	152 人	250 人
テレワークによる女性の就職数	0 人	20 人
幼稚園での預かり保育の利用者数 (延べ人数)	11,633 人	13,000 人

◇具体的な施策内容

① 就労ニーズと雇用ニーズのマッチング強化

市庁舎内に市の企業支援部門と奈良労働局のハローワークが併設され連携している「しごとセンター」の立地のメリットを最大限活かし、女性の就労ニーズと事業者の雇用ニーズをマッチングする仕組みを構築する。双方向からのマッチングを見据え、まずは企業の基礎情報と求人情報を収集した上でデータベース化し、最新の情報を提供できる環境を整える。収集した情報は、しごとセンター、子育て世代すこやか支援センター及び産業振興館（テレワークセンター）でも閲覧できるようにして、求職活動の際の身近にある具体的な情報収集、活用のもとつなげる。求人情報は、ハローワークとも連携して最新の状況を確保するとともに、しごとセンターで求人登録ができる窓口や求人内容に関する相談窓口を設置する。その他にも、企業合同説明会等を開催し、地元事業者にとって求人活動を行いやすい環境を整備する。

また、子育て世代の女性を中心に、キャリアコンサルタントによる就業活動への準備や就業のマッチング、キャリアカウンセリング(就業相談・職業相談)や心理カウンセリング等を実施し就業へとつなげる。

課 題	事業内容・事業計画
①求人活動における悩みについては、「募集しても人が集まらない(応募が少ない)」「応募はあるが必要とする知識・経験等が不足」が多数に上る。	<p>(1) <u>ハローワークとの一体的事業の推進</u></p> <p>①のように、募集をしても人が集まりにくいという求人活動における悩みがあることから、市内の事業者の情報を収集し、就労する際の事業者の基礎情報として、求職者に提供できる仕組みを構築する。</p> <p>また、ハローワークと求人情報のデータについて共有し、ハローワークだけでなく市内の公共施設でも求人情報の閲覧ができるようにし</p>

<p>②全般的に正社員では、「専門職・技術職」「技能職」の人手不足が顕著である。(特に介護職、支援員、ヘルパー、保育士が不足)</p> <p>③福祉分野での就業経験のある女性の50%以上が福祉分野での就職を希望している。</p> <p>④20代～40代では「出産、子育て期間が終わったら働きたい」という回答が60%(出産・育児との両立が課題)に上る。</p>	<p>て、マッチングを図る仕組みを充実させる。</p> <p>さらに、しごとセンターで求人登録ができる窓口を設置することにより、市内事業者の利便を図る。</p>						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>拡充</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table>	H30	H31	H32	拡充	→	→
	H30	H31	H32				
	拡充	→	→				
	<p>(2) 求職者と求人事業者の接点の拡充</p> <p>①②のように、募集をしても人が集まりにくいという悩みを持つ事業者は福祉分野に多く、また③のように、福祉分野での就業経験がある女性の多くは同分野での就職を希望していることから、現在ハローワークで行われている合同面接会等に加え、福祉分野に業種指定した合同説明会や合同面接会を行い、求職者と求人事業者が効果的な接点を持つ機会を創出する。</p>						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table>	H30	H31	H32	新規	→	→
	H30	H31	H32				
	新規	→	→				
	<p>(3) キャリアコンサルタントの配置</p> <p>④のように、出産・育児が終わったら働きたいという女性が多いことから、子育て世代の女性を対象に就職活動への準備段階として、自分に合った仕事や履歴書の書き方、面接でのマナー等の相談を行う。</p> <p>また就労と育児の両立等といった心理的不安を解消するためのカウンセリング等も実施し、働くことへの理解を深めることで、子育て世代の女性が、自分に合った仕事への就労を図ることを支援する。</p>						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table>	H30	H31	H32	新規	→	→
H30	H31	H32					
新規	→	→					

② 柔軟な働き方ができる雇用の創出

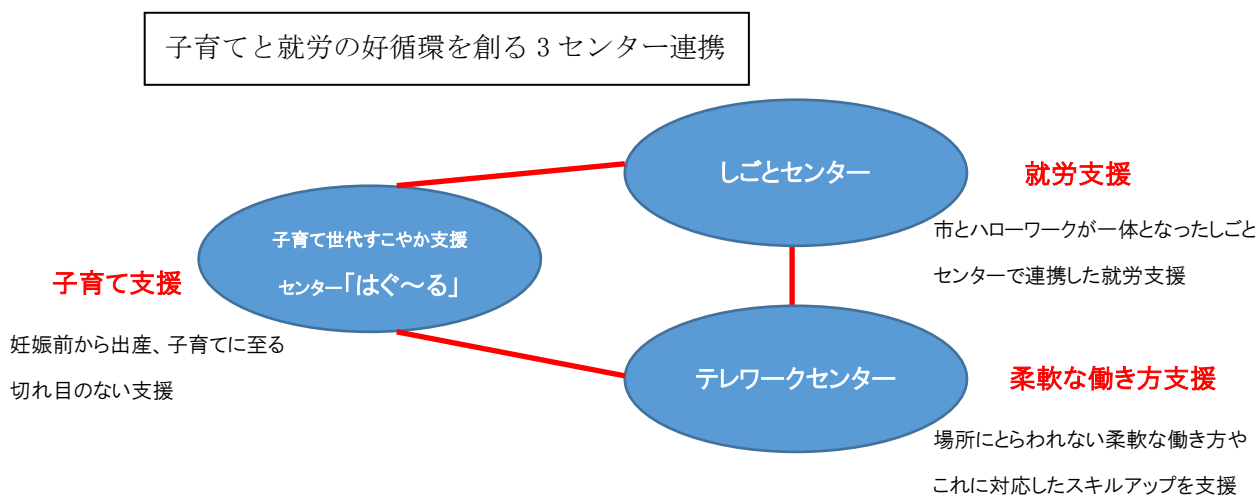
テレワークセンターにおいて、テレワークでの就労ニーズに対しての講座や講習会を開催するとともに、講習会で身に着けたスキルを実際の仕事につなげる仕組みを構築する。一方、事業者に対しては、施設利用の案内といった周知活動を行い、テレワークの普及促進を図ることで、出産・子育て等に伴う離職を防止し、人手不足を解消する。

また、テレワーク以外の柔軟な働き方（短時間勤務やワークシェアリング等）を積極的に推進し、女性がより就労しやすい環境を普及することで、事業者の人手不足の解消や出産・子育てや介護に伴う離職の防止を図る。

課 題	事業内容・事業計画		
<p>①仕事を探す(選ぶ)際に重視することは、「勤務日・勤務時間が柔軟に決められる」が上位を占めている。</p> <p>②正社員の勤務体系について、1年及び1ヶ月単位での変形労働時間制を導入している事業者は多いが、テレワーク等の在宅勤務制や時差出勤制を導入している事業者は少ない。</p>	<p>(1) <u>テレワークの普及促進</u></p> <p>①のように、仕事を探す際に、勤務日や勤務時間を柔軟に決められることを望む女性が多いことから、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方である「テレワーク」をより一層推進するとともに、事業所側の雇用ニーズを踏まえた立体図面作成(3D-CAD)の技能習得講習を実施するなど、実際に「テレワーク」を通じて働くことができる人材の育成と就労を一体的にサポートし、女性がライフステージの変化によってキャリアを中断することなく働き続けられるような取組を推進する。</p> <p>また、②のように、テレワーク導入事業者は未だ少数に留まるため、事業者に対しテレワークの普及を図ることで、出産・子育て等に伴う離職を防止し、人手不足の解消を図る。さらに短時間勤務やワークシェアリング等、柔軟な働き方ができる雇用の創出を、事業者への提案・啓発を通じて図っていく。</p>		
	H30	H31	H32
	拡充	→	→

③ 子育て世代の就労支援

就労の際、出産・育児に関する悩みを抱える女性が多いことから、子育て、就労、柔軟な働き方をそれぞれ支援する3センター（安心して子どもを産み育てることができる支援体制を担う「子育て世代すこやか支援センター『はぐ〜る』」、働く場を創り、働く場を見つけられる機能を担う「しごとセンター」、そして、多様で柔軟な働き方の実現の支援を担う「産業振興館（テレワークセンター）」）の連携により、相談、マッチング、スキルアップといった一連の仕組みを構築し、子育て世代の就労を促進する。



また、家族の家事・育児に関する理解、参加を促進する取組、いわゆる「イクメン事業」等を実施し、女性の身体的・精神的ゆとり生み出す環境を整備することで就労機会の創出を図る。

幼稚園の長期休業中の預かり保育を拡充することで、育児の事情で仕事を辞めなければならない場合が多いといった状況を改善する。預かり保育については、地域活動や「育児・子育て」に関する活動に意欲のある人が多かったことから、人材に保育サポーターとして活躍する場を創出する等により、地域で活躍したいというニーズと子どもを預けたいニーズとのマッチングを図る。

課 題	事 業 内 容・事 業 計 画
<p>①就労状況は、子育て世代と考えられる30代で落ち込み、40代でまた上昇するM字構造を示している。</p> <p>②20代～40代では「出産、子育て期間が終わったら働きたい」という回答が60%（出産・育児との両立が課題）に上る。</p>	<p>（1）子育て支援と連携した就労の推進</p> <p>①のように、出産・育児に伴い、仕事を辞める女性が多いことから、女性が仕事と子育ての両立や希望する分野で活躍することができるよう、子育て世代すこやか支援センター「はぐ〜る」において、子育てに関する悩みを解消する。そこで生まれたゆとりをしごとセンターで実際の就労に結びつける。また、ICT(情報通信技術)を活用</p>

③仕事を探す(選ぶ)際に重視することは、「勤務日・勤務時間が柔軟に決められる」が上位を占めている。

した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方ができるテレワークを産業振興館(テレワークセンター)で行うといった3センターの連携による、相談、マッチング、スキルアップといった一連の仕組みを構築し、子育て世代の就労を促進する。

また、③のような柔軟な働き方ができる事業者の情報を収集の上、3センターで閲覧できるようにするとともに、しごとセンターで就職相談等を行い、子育て世代の女性が就職活動しやすい環境を整備することで、実際の就労につなげる。

H30	H31	H32
拡充	→	→

(2) 若者世代の男女共同就業の促進

②のように、出産・育児が終わったら働きたいという女性が多いことから、夫の家事・育児への参加をより促進し、母親のゆとりを生み出す環境を整備する取組として、子育てについて学ぶことができる教室(パパスクール)の開催や父子で楽しむことができるキャンプ(父子ブートキャンプ)のような夫の育児参加を促す「イクメン事業」などを進めることで、子育て中の女性の就労促進を図る。

H30	H31	H32
拡充	→	→

(3) 幼稚園における長期休業中の預かり保育の拡充及び保育サポーター等への人材活用

①のように、出産・育児に伴い、仕事を辞める女性が多いことから、幼稚園に子どもを通わせている保護者は非正規での勤務が多い。そこで、幼稚園の長期休業中も預かり保育を実施することで、仕事を辞めなければならない状況を改善し、長期休業中も継続した勤務ができるようにする。

H30	H31	H32
拡充	→	→

(2) 地域活動への参加促進

◇重要業績評価指標 (KPI) の設定

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H28)	目標値 (H32)
スキルアップ支援講座の参加者数	20 人	160 人
介護ボランティアの参加者数	45 人	60 人
学校支援ボランティアの参加者数	15,216 人	15,500 人
ボランティアセンターへの登録団体数	51 団体	55 団体

◇具体的な施策内容

① 市民の関心の高い分野での人材ニーズの発掘と人材育成

「福祉・介護」、「育児・子育て」、「医療・健康」について学びたい、スキルを活用したいという回答が多く、一方で、これらの分野は子育て世代や高齢者などの支援ニーズも高く、双方のニーズをマッチングさせることで、地域課題の解決と地域人材の活躍促進につなげる。

特技を活かした仕事に就きたい、特技・得意分野を活かしたいという思いを現実の活動へと結びつけるため、子育てや介護をする中でも、趣味や特技を活かした地域活動への参加や小さな起業へも活かすことができるように、自身のスキルアップにつながる講座などを開催し、人材ニーズの発掘と活動への転換を促進する。

課 題	事業内容・事業計画
<p>①地域活動についても「育児・介護以外の家事との両立」 (30.7%)「育児や介護との両立」(27%)が課題と答えた人が多い。</p> <p>②特技・得意分野を「積極的に活かしたい」と答えた人の20%が保健医療関係の経験者である。</p> <p>③20代～50代では、「育児・子育て支援」「医療・健康」に関する活動に参加意欲が高い。</p>	<p>(1) <u>地域支え合いのためのスキルアップ支援講座の開催</u></p> <p>①のように、活動意欲はあるが育児・介護や家事との両立に不安を抱えている女性もいることから、育児や介護をする中でも自由になる時間を活用し、自身の特技・趣味を活かしたマルシェへの出店やワークショップ等の地域活動への参加、またネット販売など小さな起業へも活かすことができるよう、スキルアップを図る講座を、年間を通して開催することで、人材の発掘と活動への転換を促進する。</p> <p>また②③のように、育児・子育て、医療・健康分野での地域活動参加意欲が高いことから、傾聴や手話などのボランティアスキルを高める講座やセミナーを実施し、ボランティア人材の発掘・育成を図り、地域で助け合い、支え合い</p>

	ができるまちづくりを推進し、地域活動の活性化を図っていく。		
	H30	H31	H32
	拡充	→	→

② ボランティア団体の充実とマッチング

ボランティア団体の活動は、様々な地域課題を直接的または間接的に解決するとともに、地域貢献への参加を通じて参加者自身にも生きがいをもたらすなどの効果を有しており、地域人材の活躍の場として有効である。今回の調査により、団体の認知度向上が活動の強化、参加者の増加のために求められていることから、活動内容の情報発信を強化する取組を支援する。

特に子育てサークルは、最も身近で参加しやすい子育て支援実施単位と捉えると、本市の子育て環境を向上させる役割を担っており、支援される側から支援する側への参加者の好転を図ることが持続的活動のために重要であることから、新たな支援体制を構築する。

課 題	事業内容・事業計画		
<p>①程度に差はあるが、地域活動に参加してもよいと思っている人が全体の70%程度あるものの、実際に参加している人は10%程度である。</p> <p>②活動したいがボランティア活動の内容や実績が不明との意見が多い(45.8%)。</p>	(1) ボランティア活動の情報発信強化		
	<p>①②のように、活動したいがボランティア活動の内容や実績がわからないという意見が多いことから、年1回発行の「いちょうだより」と年2、3回発行の「市民活動ネットワークだより」、「ボランティア市民活動の集い」に加え、新たに市広報紙にボランティア団体を紹介する記事の掲載、さらにFace book「e～やん天理」も積極的に活用し、活動内容の情報発信を強化することで認知度を高める。</p> <p>また、本市への転入者に配布する冊子等にもボランティア団体を掲載することで、市民への地域活動団体の情報を周知し、地域活動に参加意欲がある人に対してアプローチして参加者数の増加を図る。</p>		
	H30	H31	H32
	継続	→	→

- ③地域のボランティア団体は、高齢化、人手不足による運営困難が課題として顕著である。
- ④特技・得意分野を「積極的に活かしたい」と答えた人の20%が保健医療関係の経験者である。
- ⑤20代～50代では、「育児・子育て支援」「医療・健康」に関する活動に参加意欲が高い。
- ⑥20代～40代では育児等の家事との両立とともに「一緒に参加する仲間がいない」ことも不安と思っている。

(2) ボランティア活動への参加促進

③のように、ボランティア団体は高齢化、人手不足に悩んでいるところもある。そこで、高齢者自身が介護関連施設で活動を行う介護支援ボランティアでは、参加することによるポイント制の仕組みで参加者の増加を図っていく。

また、リハビリ専門職の指導を受け介護・認知症予防に関する運動指導ができるようになったボランティアが、地域の高齢者を指導し取組の輪を広げる介護予防リーダー「STEP」の活動を進める。

④⑤のように地域活動への参加意欲の高い保健医療関係の経験者や「医療・健康」分野に興味がある人をターゲットに、ボランティア活動への参加促進や活動を拡大する人材の育成を図る。

H30	H31	H32
拡充	→	→

(3) 子育てサークルの活動支援

⑥のように、育児分野に関する活動意欲が高いが、一緒に参加する仲間がいないことに不安を抱えている女性が多いことから、子育てサークルは最も身近で参加しやすい子育て支援実施単位でもあるので、子育て世代すこやか支援センター等の地域子育て支援拠点での交流が子育てサークルに発展するように後押しをする。

また、子育てサークルの雰囲気や活動内容を紹介する機会でもある天理駅前広場や公民館での活動等を支援することで、子育て環境の向上と支援される側からする側への好転を図り、サークル活動の活性化を図る。

H30	H31	H32
拡充	→	→

③ 公共的分野への参画の促進

地域での活動意欲やボランティア活動等への参加意欲の高い人は、「公共施設や空き家などを活用した交流拠点づくり」や「天理駅周辺地区における文化発信・健康推進・憩いの場づくり」などに関心を持っている傾向がある。そこで、新しく生まれ変わった天理駅前広場コフフンを、文化芸術、スポーツや子育て、健康増進、介護予防など様々な市民活動が表現される場、交流する場として、市民主体による利用の促進を強化する。また、こうした活動を地域間交流の促進につなげ、市全体の市民活動の活性化を促進し、地域課題を見つけ、自らその解決に取り組む人材や団体を増やす取組を行う。

また、地域と学校がパートナーとして未来を担う子ども達の成長を支え、ともに地域を作っていくためには、地域コーディネーターとともに、学校支援ボランティアの協力が欠かせない。現在、多くの学校支援ボランティアが活動しているが、ボランティアの経験がなく、活動内容、実績に不安がある人や、活動意欲はあるが、それを活かす場を見つけれない人がいると思われる。そこで、地域と学校が連携して積極的に活動内容等の情報を提供し、活動意欲のある人たちが、新たに参加しやすい環境を整える。

課 題	事 業 内 容・事 業 計 画
<p>①「天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組に関して、地域での活動で「役に立ちたいと思う」人や、地域活動等へ「既に参加している」人や「できるだけ参加したい」人など、活動（参加）意欲が高い人では、「公共施設や空き家などを活用した交流拠点づくり」や「天理駅周辺地区における文化発信・健康推進・憩いの場づくり」の回答が多い。</p>	<p>(1) <u>地域課題解決のための新たな市民活動主体の育成・促進</u></p> <p>①のように、地域活動等への参加意欲がある人は、天理駅周辺地区における文化発信・健康推進・憩いの場づくりや公共施設等を活用した交流拠点づくりに関心を持っている。そこで、市中心に位置するオープンスペースである天理駅前広場等を自由に使えることにより、ボランティア活動を主宰したり、立ち上げたりする人を支援・促進し、市民主体による文化・芸術、スポーツ、子育てといった様々な取組を一層活発化させる。</p> <p>天理駅周辺以外にも、市東部に位置する高原地区では、地域住民が田植え体験を行い、さらに廃倉庫を改修し、地元野菜の直売所を設置するという取組や、地域料理グループがNPO法人化し、マルシェ等で手作り料理の販売を行うという取組等が積極的に行われたり、丹波市校区では地元の神社の社務所を利用し、月に1回子ども食堂を開き、地域住民と子どもが交流し、</p>

<p>②特技・得意分野を「積極的に活かしたい」と答えた人の28%が教育関係の経験者である。</p> <p>③特技・得意分野を「積極的に活かしたい」と答えた人の33%が教育関係の仕事を希望している。</p> <p>④活動したいがボランティア活動の内容や実績が不明との意見が多い。(45.8%)。</p>	<p>子どもの居場所づくりの取組が始まっている。</p> <p>また、観光ボランティアガイドは、地域活動という役割だけでなく、本市観光事業において重要な役割を担っており、市民活動によるインバウンド対応の仕組みづくり等に活かしている。</p> <p>こうした新たな地域課題に対応した活動の立ち上げを促すため、まちづくりや地域課題について市民が語り合うワークショップ、ディスカッションの場を設け、自らボランティア活動を立ち上げたり、ボランティア活動のリーダーとして参画する人を増やす。</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>拡充</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table>	H30	H31	H32	拡充	→	→	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>拡充</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table>	H30	H31	H32	拡充	→	→
H30	H31	H32											
拡充	→	→											
H30	H31	H32											
拡充	→	→											
<p>(2) <u>学校支援ボランティアの活動促進</u></p> <p>②③のように、教育関係の仕事を希望している人、経験したことがある人は、自分の特技・得意分野を活かしたいと思っている人が多いが、④のように、活動の情報等が不明と感じている人も多い。</p> <p>地域で子どもを育てる取組の一環として、樺本公民館の自習室を利用し、基礎学力の向上のため、地域住民・学生ボランティア・小学校の教員による放課後学習塾「町カ塾」が「樺本モデル」として始められている。</p> <p>このような地域と学校がパートナーとして未来を担う子ども達の成長を支え、ともに地域を作っていく学校支援ボランティアの取組を、積極的に地域住民に情報提供し、活動意欲のある人たちが新たに参加しやすい環境を整えることで、学校支援ボランティアへの参加者数の増加を図る。</p>	<p>②③のように、教育関係の仕事を希望している人、経験したことがある人は、自分の特技・得意分野を活かしたいと思っている人が多いが、④のように、活動の情報等が不明と感じている人も多い。</p> <p>地域で子どもを育てる取組の一環として、樺本公民館の自習室を利用し、基礎学力の向上のため、地域住民・学生ボランティア・小学校の教員による放課後学習塾「町カ塾」が「樺本モデル」として始められている。</p> <p>このような地域と学校がパートナーとして未来を担う子ども達の成長を支え、ともに地域を作っていく学校支援ボランティアの取組を、積極的に地域住民に情報提供し、活動意欲のある人たちが新たに参加しやすい環境を整えることで、学校支援ボランティアへの参加者数の増加を図る。</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>継続</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table>	H30	H31	H32	継続	→	→	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>継続</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table>	H30	H31	H32	継続	→	→
H30	H31	H32											
継続	→	→											
H30	H31	H32											
継続	→	→											

6. 戦略の推進体制

本戦略に基づく施策を着実に実行し具体的な効果に結びつけていくため、主担部署を設置するとともに、庁内の関係部課との連携体制を築く。特に、地域の人事部戦略推進プロジェクトチームにより PDCA サイクルを実行するとともに天理市まち・ひと・しごと創生本部会議においてその進捗状況を確認していくものとする。